

2020年度事業計画書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施します。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 第36回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じて友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とする陸上競技大会の都道府県代表を決定する予選大会と、決勝大会を後援します。

- ・実施日 ① 予選大会 2020年5月～7月
② 決勝大会 2020年9月19日(土)～21日(月)
- ・場所 ① 予選大会 全国47都道府県の競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム
- ・参加見込 約150,000人(選手、関係者)

公益財団法人日本陸上競技連盟と協議し、発育・発達時期における過度な練習、成績至上主義に陥ることがないように、指導者の教育を進めるとともに、子どもたちの意欲、才能を開花させる取り組みとして、前年度より複数の陸上種目に取り組みコンバインド種目を取り入れました。

また、例年12月に実施していた全国小学生クロスカントリーリレー研修大会を今回より本大会に統合します。陸上競技の基本技術の習得を軸に据え、小学生の憧れの大会として、選手相互の交流を更に広め、“陸上競技を続けたい”という思いを醸成する大会運営、選手育成の在り方を検討します。

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰事業

子どもたちの健全な心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰します。

- ・実施日 2020年9月20日(日)
- ・場所 第36回全国小学生陸上競技交流大会において

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

2015年9月、当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」をスタートしました。

世界のトップ選手が集う環境に飛び込み、海外のコーチに指導を乞い、切磋琢磨する中で大きな刺激を受けながら、練習できる機会を提供します。本プロジェクトを通じて、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、将来、国際大会におけるメダリスト誕生を目指すことを目的とします。

<支援内容>

- ・対象：オリンピックなど国際大会でメダル獲得を志す満16歳以上の実業団に属していない個人
- ・支援：旅費、遠征費、コーチフィー等を助成

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟している各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体を通して、ジュニアアスリート育成を支援することで、青少年の健全な心身の育成を図ります。

前年度に引き続き、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援します。国内開催の国際大会を含む、全国大会や全国大会の予選を兼ねる地方大会から成績優秀者を選抜して行うトップジュニアキャンプ、ナショナルジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。

<支援内容>

- ・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 約100名（年代別に4回開催）
- ・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 約200名（年10回開催）
- ・海外遠征 選手・指導者 約60名（全米OPENジュニア大会を含む大会）

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という考えのもと、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの自活力を育む自然体験活動の普及と活性化を図る次の事業を推進します。

1. 自然体験活動支援事業「第19回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体に各10万円の実施支援金を贈呈します。

また、支援した団体から提出された活動報告書を審査し、優秀団体を表彰するとともに、各団体のユニークな活動を発表し、他団体の活動の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図ります。

- ・自然体験活動企画案 公募期間： 2020年2月1日～5月18日
- ・企画コンテスト表彰式： 2021年1月30日(土)

2. 安藤百福センター事業

2010年5月、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成や、アウトドア

活動の普及を目的として、「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」（略称：安藤百福センター）を長野県小諸市に設立しました。安藤百福センターの事業活動を通して、日本における自然体験活動の中心的な役割を果たします。

<事業内容>

(1) 自然体験活動振興事業

子どもたちを身近な自然に案内する指導者の養成や、自然体験への興味を喚起する講座・セミナー等を実施し、自然体験活動の更なる普及と底辺の拡大を図ります。

- ・安藤百福センターでの指導者養成セミナー、講座等の開催
- ・自然体験活動に係るシンポジウムの開催
- ・市民公開講座等の開催
- ・小諸ツリーハウスプロジェクトの推進

(2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林やキャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩くこと」が基本となります。青少年教育の有効なツールのひとつとして考えられるロングトレイルの普及・振興のための事業を支援し、また子どもたちが安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援し、自然体験活動の更なる振興、活性化を図ります。

- ・ロングトレイルの情報集約、広報活動支援
- ・ロングトレイルシンポジウムの共催
- ・全国のロングトレイル運営団体との交流、協調、支援
- ・日本列島を貫く「JAPAN TRAIL」制作に向けた支援
- ・登山安全対策事業への支援

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを掲載しているホームページ「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行います。

- ・URL <http://www.shizen-taiken.com>

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第25回安藤百福賞」表彰事業の実施

新しい食の創造を推し進め、食品産業の発展に貢献することを目的に『食創会』を主宰し、食科学の振興並びに新しい食品の開発に貢献する独創的な基礎研究、食品開発、ベンチャー等を表彰する「安藤百福賞」表彰事業を行います。

<表彰式・講演会> 2021年3月9日(火)

■公4. 発明記念館運営事業

1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田市、以下「池田記念館」）

1999年11月に開館した池田記念館では、「人間にとって一番大事なのは創造力であ

り、発明・発見こそが歴史を動かす」という財団創設者 安藤百福の考えに基づき、新しい食文化となったインスタントラーメンの発明の歴史展示や体験工房など、体験型食育ミュージアムを運営します。

2. 安藤百福発明記念館 横浜（横浜市、以下「横浜記念館」）

2011年9月に開館した横浜記念館では、「クリエイティブシンキング＝創造的思考」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想、創造的な考え方を体感でき、広く子どもたちの「創造力」や「発明心」を育む活動を展開し、発明・発見の大切さを伝えます。

本事業においては、両記念館の食育体験コーナーの一部を賃貸した施設賃貸料と、横浜記念館における入館料（ただし、高校生以下は無料）による収益等を、事業実施のための財源として充当します。

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸します。本事業による収益については、公益目的事業を行うために充当します。

なお、池田記念館では物販業務を受託しておりましたが、2018年度10月、業務の見直しに伴い、業務受託を一時休止しています。

以上